

メンバー学習会

「くらしの学習会～一人ぐらしについて知ろう!～」

開催しました!



2月8日(金)第三かめおか作業所さくらホールで、障害のある人の一人ぐらしについてのメンバー学習会「くらしの学習会～一人ぐらしについて知ろう!～」を開催しました。多様なくらし方を知ってもらい、自分の将来のことを考える機会として学習会を計画しました。

講師として亀岡福祉会のグループホームを10年以上利用され、3年前から一人ぐらしをスタートされた、松田ゆかりさんに講演をしていただきました。

「自宅からグループホームへの入居の経過」「グループホームでの生活でよかったこと、困ったこと」「グループホームから一人暮らしを決意された経過」をお話していただきました。一人ぐらしの

「楽しいこと」や「日々の失敗談、困りごと」などの体験を、笑いも交えながらお話してくださいました。

講演後は参加者からの発言もあり「一人ぐらしをする前に練習をしておいた方がいいことはありますか?」「休みの日はどんなことをしていますか?」など質問もたくさんで、「自分も将来は一人ぐらしをしたい」という感想もでました。

最後に松田さんに一人暮らしの魅力についてお尋ねすると、「自分だけの自由な時間を、自分で決めて過ごすことができる」ということと、参加されたみなさんへの一言として「失敗もたくさんしましたが、一人で抱え込まずに誰かに相談をしてください」とアドバイスもありました。

今回の学習会では、一人ぐらしをされている当事者から、成功や失敗などの体験を聞けて、また日々の楽しみや困りごとを聞いたことは、メンバーのみなさんにとって心に響くものだったと思います。

障害者権利条約第19条では「どこで」「誰と」「生活を営むか」という「選べる暮らし」が謳われています。一人暮らし、グループホーム、自

宅、結婚、シェアハウスなど、多様なくらしの選択肢があり、その中から自分自身で選ぶことが、その人らしいあたりまえのくらしの実現になります。しかし現状を見ると障害のある人のくらしは選択肢がまだまだ少ない状況です。

多様なくらし方が選択できる地域になるように取り組んでいくとともに、メンバー自身が将来のくらしについて学ぶ、考える機会を大切に「その人らしいくらしの実現」を一緒に考えていければと思います。その中で今回の学習会は、一人ひとりが自分自身の「将来のくらし」について学び、考える機会になったと思います。今後も様々なくらしについての学習会を開催できればと思います。



カーブス様よりご寄付いただきました!



カーブス京都亀岡篠店様とカーブス京都亀岡大井店様より、食材、調味料、衣料、日用品などたくさんのご寄付をいただきました。カーブス様ではフードドライブ活動を実施されており、会員様から食料などを募り、私達のような社会福祉施設にご寄付していただいています。

ご寄付いただいた物は、日中事業所やグループホームで大切に使用させていただきます。ありがとうございます。



地域づくり



農福連携フォーラム in 京都丹波

地域のお役立ちから
地域の宝物に

今年度、亀岡福祉会では「きようと農福連携センター中サテライト事務局」を京都府より受託しております。そのキックオフイベントとして「農福連携フォーラム in 京都丹波」を亀岡市役所市民ホールにて開催しました。当日は100名を超える来場者にお越しいただき大成功を収めました。ご来場いただいた皆様ありがとうございました。

今回のフォーラムでは、地域の皆様に「農福連携」を広く知っていただき、「農業」と障害のある方の「はたらく」との連携の和を広げていこうと開催させていただきました。

第一部事例報告では「京都での農福連携の取り組み」として社会福祉法人よさのうみ福祉会リフレかやの里(管理者)藤原さゆりさん、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会さん(山城(管理者)藤永実さん、(施設長)新免修さん)からそれぞれの取り組みについてご報告いただきました。

藤原さんからは、リフレかやの里を通して、仕事が増え、利用者さんの給料が上がリ、地域の農家さんの収入も増えていく。そういう循環を作っていきたいという『おたぎやあさま(お互い様)』の仕組みづくりについてお話しいただきました。

藤永さん、新免さんからは、自分達で生産から加工、販売、コミュニティカフェの運営までおこなうことで地域

の中で働く事が自信につながり、地域に必要とされる事業所づくりがおこなえてきたことをお話しいただきました。

第二部パネルディスカッションでは、「農業・福祉の連携と地域づくり」にむけて」と題し、京都丹波で活動されている団体や事業所、また行政からは京都府の障害者支援課の方も入り、事業を通して地域をどのようにしていきたいのか(地域づくり)、また経済活動としての事業活動が永続的にできていくのかなど大いに語り合いました。

今回のフォーラムを通して、自分達のミッションはなんなのか、後継者の育成について、地域とはどの範囲を指すのかなどを明確化していくことの大切さを学ぶことができました。また、私達が福祉の事業をおこなっていく中で、地域の皆さんが幸せを感じることができると共生社会の実現が見えてくるのだと感じることができたフォーラムとなりました。(事務局・阿部)

農福連携って??

障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組のことをいいます。京都では地域の高齢者や若者など多種多世代が寄り添う「地域共生」も組み合わせ、誰もが受け手や支え手になれる京都ならではの共生社会を構築することを指し「京都式農福連携」を目指しています。

「ちょっと聞いてよ！」

第19回 かとう だいしろう 加藤 大志朗さん (第三かめおか作業所)

平成19年からかめおか作業所で仕事をしてきた加藤大志朗さん。かめおか作業所での丸10年を一つの節目に、次のステップに進もうと思いい、今年度から第三かめおか作業所(以下、第三)に移りました。

第三では、洋菓子グループになり、今はクッキー作りをがんばっています。この4月で約1年になりますが、「自分としては、ようがんばっていると思います」と加藤さん。毎日、朝8時には作業所に出勤している姿は、本人の「がんばっていると思います」という言葉そのままだと思います。

今回は、そんな加藤さんにお話を伺いました。

―第三に異動して良かったですか？

第三は仕事の時間が長いし、お金もたくさんもらえるから嬉しいです(※第三は、朝9時から夕方5時までが仕事の時間)。

―クッキー作りでは何をしていますか？

クッキーの材料を混ぜる仕事をしています。



―お仕事は難しいですか？

最初はやり方とかわからなかったけど、もう慣れました。今では、手伝ってもらうこともあるけど、自分ではがんばってやっているなと思っています。

―お休みの時はどうしているのですか？

毎日の仕事は疲れるので、休みの日はゆっくりしています。自分の好きな音楽を聴いている時が一番落ち着きます。

―これからの目標はありますか？

旅行とかも好きなので、色々なところに行ってみたいのもありますが、クッキー作りをもっとうまくなりたいと思っています。

ご寄付 1月〜2月

2/18 カーブス京都 様

日用品、食品、衣料、洗剤他

ご寄付ありがとうございました。

時

この原稿を書いている時、施設ではインフルエンザが猛威を振るっていました。集団で生活する私たちの日常は、あらゆる感染症にかかる危険性をはらんでいます。しかし、ウイルスを避ける無菌状態の生活を続けると免疫力が低下し、逆に体力が衰えてしまいます。時には清潔、安全第一の考えを捨て、自然の中で泥にまみれ、子供のように無邪気にはしゃぎたいものです。

(K)